

経済・経営	【代表的な研究テーマ】															
key word	□ 計量経営学 □ 企業評価論															
■ 計量経営学 ■ 企業評価論 ■ 企業の社会性 ■ CSP-CFP 関係 ■ 健康経営	課題解決に役立つシーズの説明															
	私の研究テーマは企業評価です。企業評価論を定義すると“企業が持っている、長期に維持発展していくための総合的な潜在能力を測定すること”となります。従って企業評価を研究することにより、どのような要因が企業を維持発展させていくことになるかが明らかになり、これはすなわち経営学理論構築のひとつにほかなりません。経営学理論から企業の維持発展要因を探り、現実のデータに当たり、それを企業評価モデルに当てはめ、その適合性を見る、経営学理論の修正を試みる、という仮説＝検証のプロセスが経営学理論の精緻化を促進するからです。ただ手法として計量的なものを多く用いるという特徴があるので、これを「計量経営学」と呼んでいます。ちなみにこの言葉に対する英単語は存在せず、私は managemetrics という造語を作り、使っています。															
岡本 大輔 Daisuke Okamoto	企業評価論をひとことで言えば、良い企業とは何か、悪い企業とは何かを考える学問、とも言えます。そしてその企業評価の研究領域は大きく二つに分けられる、と私は考えています。ひとつは、何をもって良しとするのかという、視点・基準の研究です。これは、評価をするからにはその基準が必要であり、それをどのように設定するのかを考える研究領域です。もうひとつは、どのように評価するのかという、手法・方法の研究です。データ量が多種多様になってきている現在、従来の多変量解析法に加えて、人工知能、特にエキスパートシステムなどの応用が考えられます。これらのうち前者はいわばWHATの研究といえ、後者はHOWの研究と位置づけることができます。このような問題意識に基づいて最初に纏めたものが、拙著『企業評価の視点と手法』です。															
経済学部 特任教授(商学博士)	HOWをさらに発展させ、人工知能分野のエキスパートシステムに加えてニューラルネットワークの企業評価への応用を考え、さらに両者の統合を試みたものが拙著『AIによる企業評価』-人工知能を活かした知識モデルの試み-、です。そして、WHATの発展として、良い企業の基準として従来の収益性・成長性に加えて社会性をも加えよう、という試みからCSRへのアプローチを考え、実際の社会性モデルを構築したものが、共著『企業評価＋企業倫理』CSRへのアプローチ、です。															
【プロフィール】 1958 年 神奈川県逗子生まれ 1981 年 慶應義塾大学商学部卒業 1986 年 同大学院商学研究科博士課程単位取得退学 1996 年 同大学商学部教授 2019 年 同大学商学部長 2024 年 同大学名誉教授 滋賀大学経済学部特任教授	WHATに絞って纏めたのが、拙著『社会的責任とCSRは違う！』															
【主な社会的活動】 日本経営学会 組織学会 企業と社会フォーラム学会	です。良い企業の基準として、儲かっていて伸びている企業、すなわち高収益性・高成長性が考えられます。しかし現代企業にとって、とくに大企業にとってはそれだけでは十分ではありません。社会的影響力の大きさを考えると、社会に対する良い影響、すなわち高社会性も必要となります。いわゆる、企業の社会的責任であり、21世紀に入ってからCSRとも呼ばれています。しかし両者には共通点もありますが、相違点もあります。更に、三方よし、CSV、戦略的CSRなど、類似概念も多数存在します。これらの関係の整理を試みたものが『社会的責任とCSRは違う！』ですが、無論、managemetrics の精神も忘れず、HOWとして、CSP-CFP(Corporate Social Performance vs. Corporate Financial Performance)分析の続編も掲載しています。															
【主要著作】 『社会的責任とCSRは違う！』 千倉書房、2018. 『深化する日本の経営』((共著) 千倉書房、2012. 『企業評価＋企業倫理』CSRへのアプローチ(共著) 慶應義塾大学出版会、2006. 『A I による企業評価』 人工知能を活かした知識モデルの試み、中央経済社、2004. 『企業評価の視点と手法』 中央経済社、1996. “Social Relationship of a Firm and the CSP-CFP Relationship in Japan: Using Artificial Neural Networks,” Journal of Business Ethics, 87-1, 2009.	財務業績と社会性による4つのType															
	<table><tr><td rowspan="2">社 会 性</td><td>高</td><td>Type IV 高社会性</td><td>Type I 高財務業績 高社会性</td></tr><tr><td>低</td><td>Type II 低財務業績 低社会性</td><td>Type III 高財務業績 低社会性</td></tr><tr><td></td><td></td><td>低</td><td>高</td></tr><tr><td></td><td></td><td>財 務 業 績</td><td></td></tr></table>	社 会 性	高	Type IV 高社会性	Type I 高財務業績 高社会性	低	Type II 低財務業績 低社会性	Type III 高財務業績 低社会性			低	高			財 務 業 績	
社 会 性	高		Type IV 高社会性	Type I 高財務業績 高社会性												
	低	Type II 低財務業績 低社会性	Type III 高財務業績 低社会性													
		低	高													
		財 務 業 績														
	また、テキストとしては恩師である清水龍瑩先生の門下生4人[岡本大輔・古川靖洋・佐藤和・馬場杉夫]による共著『深化する日本の経営』—社会・トップ・戦略・組織— Revisiting Japanese Management があります。															
	企業・自治体へのメッセージ															
	株式会社リンジーアドバイス(東京都大田区田園調布)のチーフアドバイザーとして、多くの企業の経営関係データの分析・アドバイスをこなしています。特に最近は健康経営を、物理的健康、心理的健康、社会的健康に分け、前二者に偏りがちな従来型の分析に経営関係の視点を多く取り入れ、企業の維持発展、広い意味で社会に貢献できる経営を目指すアドバイスを心掛けています。															